

ふれあい さいせい



発行
済生会西条病院
 2007年 春号 第35号
 西条市朔日市269-1
 TEL(0897)55-5100



西条市武丈公園の桜 撮影：医療情報管理室 神原勝己

新院長あいさつ

院長 岡田 眞一

南棟竣工

1階 外来 藤井 真由美
 PET-CT
 画像センター技師長
 山内 務

2階 講堂 図書室
 総務課長 矢野 泰利

3階 回復期リハビリ
 テーション病棟
 主任 曾我部 都

ニューフェイス

お花見会

いしづち苑事務長 中村 満利

西条まつり写真展が開催されました!

新院長あいさつ

院長 岡田 眞一



院長
 岡田 眞一

春の風が心地よい季節となりました。

さて、私、この4月から、常光センター長のご推挙により済生会西条病院の院長に就任いたしました。

昭和54年4月に愛媛大学医学部の一期生として卒業後、昭和58年4月からこの病院に勤務しています。当時、各県に1校の医学部ができたため、20～30年後には医者は余ってくるといわれていました。ところが、今、新臨床研修医制度が始まり、地方の病院に勤務する医師がいなくなってきました。また、医の倫理や医療安全など、医療制度そのものにも多くの問題が生じています。このような医療状況の中、地元愛媛の西条で、院長として地域医療に貢献できることをとても嬉しく、また、誇りに思います。

平成16年11月の新西条市の誕生後、この4月に周桑医師会と西条医師会も合併しました。それに伴い、西条市の医療圏が広がりました。西条市の一次救急から二次救急を担う公的中核病院であるという、当院の役割を考えると、責任の重さをひしひしと感じます。

同時に、この4月からPET-CT、リニアック、血管ラボ(全身の血管超音波検査)、心臓リハビリテーションと回復期リハビリテーション病棟(24床)を備えた南棟が増築されました。これらの新しい医療設備を利用して、地域に密着した、高度な医療ができるように努力していきます。

今後ともご支援の程をどうかよろしくお願い申し上げます。

南棟竣工

済生会西条病院に南棟が竣工しました。拡張された外来や最新鋭の検査機器、回復期リハビリテーション病棟など、地域医療の最先端を担うこの新棟についてご紹介します。



1F 外来

平成19年4月、南棟が新設されました。新設に伴い循環器科・皮膚科・神経内科の3科が南棟に移動となりオープンしました。

広く明るく新しい診察室で4月2日からスタートとなり、新たな気持ちで診療業務にたずさわっています。待合い場所もとても広く、椅子もゆったりと坐りごこちのよいものを多く設置し、患者さんからも広がってきれいで気持ちいいですねとお声をかけていただき嬉しく思っています。

ただ4月より処方箋の運搬方法が変更になったうえにカルテを受付まで返却していただかなければならないようになり、ご不便をおかけしております。慣れるまではきちんと説明していくようにと考えております。

今までの診察場所から比べるとかなり遠い場所へ移動しているため、患者さんを始めスタッフもあまり足を運びたくないと思っているのではないかとおもうのですが、お散歩がてらだんじりの写真をみるついでに診察室にも来て下さい。

何のおもてなしもできませんが、そこには私達スタッフの笑顔ということでよろしくお祈りします。南棟を代表して藤井が一筆かかせていただきました。



1F PET-CT

今年の4月に南棟が完成したことにより、核医学検査である陽電子断層撮影装置(以下PET-CT)が導入され現在稼働しています。

県内では、四国がんセンター、県立中央病院(松山)につづき3施設目になります。当院ではサイクロトロンは設置せず、放射性医薬品(FDG)を岡山ラボから商品供給(デリバリー)してもらい検査しています。

PET-CTの原理は放射性薬剤であるFDGから放出された陽電子、さらにその陽電子から放出される放射線を検出器で検出して画像化するものです。腫瘍細胞は、一般に糖代謝が亢進していることが知られており、腫瘍細胞にブドウ糖の類似体であるFDGが通常の細胞の3~8倍蓄積するために、癌の部分が染まって見えるのです。

検査に当たり、前処置として最も重要なことは、検査前4~6時間の絶食です。FDG注射後40~60分専用の待機室で安静にリラックスして頂いた後、撮影となります。PET-CT撮影は、全身(頭部~大腿上部)像を20~30分程度で撮影します。撮影終了後、30分ほど休んでいただき検査終了になります。

この装置はがんの早期発見に大変威力を発揮するため近年注目を浴びています。現在PET-CTを活用したがん検診を実施しています。



2F
講堂
図書室

南棟の増築により、講堂や図書室等が新しくなりました。講堂については、映像機器や音響設備の充実はもとより収容人数約300人規模の広さを持ち、これまで他の施設を利用して行っていた院内学会や講演会等、大きな大会も当院で行えるようになりました。当院主催の講演会や大会等の開催の際には、是非一度足を運んでみて下さい。

お知らせ

当院では、下記のとおり講師をお招きして放射線治療に関する講演会を開催します。また、南棟に新設しました、放射線治療装置や検査装置の見学会も同時に行ないますので、お気軽にご参加下さい。

開催日時：平成19年6月23日(土曜日) 施設見学会13:00～
記念講演会14:00～

講師：平岡 真寛 先生(京都大学大学院 放射線腫瘍学・画像応用治療学教授)
宮川 正男 先生(愛媛県立中央病院 愛媛PET-CTセンター副センター長)

問い合わせ先：済生会西条病院(総務課) TEL (0897) -55-5100

3F
回復期
リハビリテーション
病棟

回復期リハビリテーション病棟には、黒河先生をはじめ、看護師8名・介護福祉士1名・看護助手5名・理学療法士3名・作業療法士2名・言語聴覚士1名・MSW2名の計23名のスタッフが携わっています。

新しい病棟は、落ち着いた雰囲気と、広々としたスペースで陽あたりも良く、石鎚山が見える景色も最高で、気持ちよく働いています。病棟内でリハビリを行い、カンファレンスでの情報交換により、患者さんの状態把握もできやすく、看護側も状況に応じた援助が行えるため、患者さんの意欲も高まり、日々の努力と進歩が目に見えてわかります。

食事時には、移動できる方は、食堂で摂取していただいておりますが、患者さんどうし談話することにより、お互い励ましあって、良い刺激となっているように感じます。

患者さんが、自信を持ち、一日でも早く自宅退院が出来るようにスタッフ一同協力して援助したいと思います。平均年齢は、少々高めではありますが、フレッシュな気持ちで頑張りたいと思っています。



お花見会

いしづち苑
事務長 中村 満利

「年々歳々、花相似たり、歳々年々、人同じからず」

3月は別れの季節、4月は出会いの季節と言われておりますが、いしづち苑においても3月に別れがあり、4月に新たな出会いがありました。

今年も咲き誇る桜の下、平成19年度が始まり、新入学児童・生徒そして新社会人が、期待と不安と希望を胸に、それぞれの人生のスタートを切りました。

このような4月1日、ここ、いしづち苑においては、今年は、西条総合運動公園で、恒例のお花見会を開催しました。

入所者の皆さん方は、毎日、いしづち苑の窓から、桜の開花を楽しみにされていましたが、いよいよお花見という事で、心浮き浮きされている様子でした。

そんな皆さん方をお世話する、ご家族や職員も、心楽しく車椅子を押させて頂きました。

「車椅子 押して歩めば ハラハラと 桜ふぶきの かかるうれしさ」

八分咲きの桜の下、クイズや散策に楽しい時間を過ぎて頂きましたが、入所者の皆さん方は、何十年ご覧になってこられた桜の花に、何を思われたでしょうか。

「さまざまなこと 思い出す 桜かな」

今年度も、いしづち苑での生活が、入所者の皆さん方にとって、幸せ多いものであることを切に願うものであります。

「いしづち苑の 生活に 幸ひ住むと 人の言ふ」



西条まつり写真展が開催されています！

医療情報管理室・神原勝己



竣工したばかりの南棟・外来で、押岡四郎先生の作品展「我がふるさと西条まつり」が開催されています。愛媛県内の「祭り」の瞬間を、印象的なアングルでファインダーに収める押岡氏の作品は、写真集「我がふるさと西条まつり」や「愛媛民俗伝承の旅」として刊行され、多くの人々を魅了し続けています。今回は「我がふるさと西条まつり」の中から30点が押岡先生のご好意で展示されました。夕闇に輝くだんじりの軌跡、畦道を揺れる太鼓台…昭和50年代に撮影された作品からは、時代を越えて祭りの熱気と情熱、感動が伝わってきます。

写真展は4月1日から5月20日まで、済生会西条病院・南棟外来にて開催されています。